

いま一步、さらに発展させる ことが出来れば！

私たちはその先も提案します。

私たちはその先も考えています。

お風呂屋さんは、地域のエネルギーセンターになれます。

- お風呂屋さんはたくさんのお湯を必要としますが、新しいエネルギーのシステム(例えば「燃料電池」などの仕組み)では、これを“逆利用”してたくさん電気エネルギーや水素の供給が地域に対して可能になるかも知れません。
- お風呂屋さんが、地域にくまなく張り巡らされた発電所でもあり、地域冷暖房センターであり、電気自動車などへのエネルギースタンドにもなれるかも知れません。
- お風呂を沸かす、お湯をつくるということはこんなに地域にとっての可能性を持っていることなのです。

さらにもう一步、

前進させることが出来れば！

さらにその先をも提案します。

- “東京の木で家をつくる”という運動があります。つくられた家々は最後にはどうなるのでしょうか？
- いいえ、その運動でつくられるよりも前から木造の家はたくさんあります。これらは解体されて、一体どうなっているのでしょうか。
- そこで、わたしたちは提案します。東京の(いいえ、あらゆる地域で)家(勿論解体廃棄された家ですヨ、これらを燃やして)でお風呂を沸かそう！解体家屋だけではなく、燃やせるありとあらゆる資源を有用な燃焼に用いよう。

(無公害な焼却機や有害物質を出さない生産システムも開発、進展させなければなりません。)

ミニマムインフラの整備を！

より身近な生活基盤の確立を！

- お風呂屋さんは、地域の廃棄物の最終処理場にもなります。循環の輪をお風呂屋さんが結びあわせることができるのです。
- これにもしもバイオマス資源をが受け入れられるとするならば、そうです、可能性は大きく羽ばたきます。地域としての再生循環型システムの基盤が成立可能です。
- つまり、お風呂屋さんは地域にとって「健康・福祉・情報・防災」の拠点であることに加えて、「エネルギーとリサイクル」のセンターにも変わって行き得るのです。地域生活の基盤をその地域があらかたまかない得ます。
- これらは《ミニマムインフラ》のすばらしい整備と言えます。